

だいじょうぶか!？ペンフレンド

作・演出 萬野 展

登場人物

- 橘馨（たちばなかおる） 高校3年。橘道江の息子。
- 橘道江（たちばなみちえ） タチバナ金属工業社長。夢コンテストを提案。
- 大前田倫太郎（おおまえだりんたろう） タチバナ金属工業工員。
- アプデル・サブリ・バシル・イブン・アブドラ・アル・サイド
（通称アブ） タチバナ金属工業工員。イラン出身。湾岸戦争経験者。
- 設楽梓（したらあずさ） タチバナ金属工業事務員。
- 桜潤子（さくらじゅんこ） タチバナ金属工業事務員。
- 阿川小百合（あがわさゆり） タチバナ金属工業会計係。
- 浅田累（あさだるい） テーマパークの少女。
- 倉本幸司（くらもとこうじ） テーマパークの雇われマネージャー。
- 飯室麻未（いいむるまみ） テーマパークのバイト。フリーター。
- 三村昌弘（みむらまさひろ） テーマパークのバイト。高校生。
- 原 葵（はらまもる） 高校生。馨の幼なじみ。桜の中学同窓生。

高校生数名

【シーン1】

下校のチャイム。
教室のドアの開閉。
ざわめき。

中央よりぱらぱらと、制服の高校生が出てきては、左右の出口に消えていく。
「じゃあね、バイバイ」「またね」「おつかれー」等々。
その中のひとりが、去りかけて、ふとこちらを向く。

葵 皆さんこんにちは。わたしの名前は、原葵。源氏物語に出てくる葵の上の葵と書いてマモルと読みます。ほとんどの人は正しく読めません。辞書にも載ってないし、なんでそんな読み方をするのか、その真相は、その名前をつけたわたしの祖父が亡くなってしまった時点で謎の彼方に消え去ってしまいました。…でもそんな理由よりも重大なことは、マモルという、男の子のような名前をつけられた娘の苦勞です。理由がわかったとしても、学校でからかいのやり玉にあがるあたりがたい運命は変わりません。悪いことに、三年のとき同じクラスにふたりも男の「マモル」がいて、わたしは一年間「女マモル」でした。負けん気の強かったわたしは男子と対等に渡り合い、「女マモルは男女」であるという、なんだか訳の分からない風評を勝ち取ってしまいました…そしてそのクラスにもうひとり、そついうややこしい呼ばれ方をしているクラスメイトがいたんです。

馨、中央よりひとりでタラタラ登場
いかにもつまらなそうに歩いている。
葵と対称の位置に立つ。

葵 橘馨。当時の呼び名は「男カオル」。もちろん、男のなかの男という意味ではありません。「男のくせにカオル」の略。

工員姿の大前田、登場。

大前田 馨う！ 学校終わったかあ！

馨 ああ、うん。

大前田 なにボーツとしてんだ。事務所いくべ、事務所。

大前田と馨、ストップモーション。

葵による解説。

葵 大前田倫太郎。小学校から馨くんと同じ学校で、中学を卒業して地元タチバナ金属工業に就職。

馨 ……なんで。

大前田 なんで？ なんてってごういことだよ。オマエ、今日がなんの日か忘れたわけじゃないだろっつな。

馨 ……なに。

大前田 オマエなあ、（口真似&顔真似）………なに。どうしてそう暗いわけ、君は。ええ、カオルちゃん。ガキのころからゼンツゼン変わんねえよな。

葵のひとり言。

葵 それはガキのころから名前でもからかい続けたあんたにも、責任の一端があるんじゃないかい？

事務員桜潤子、買い物袋を抱えて登場。

桜 あらあ、大前田くん、工場のほう、今日は上がり？ 警ちゃんも揃ってどうしたの？

大前田 潤子！ オマエはまたそうやってさぼってる…

桜 失礼ね。買い物よ。ホラ、これ。

桜、大前田に袋の中身を見せる。驚く大前田。
ストップモーション。

葵 桜潤子、わたしの中学時代の親友のひとり。卒業して大前田くんと同じくタチバナ金属工業に就職。

大前田 おまえ、これ…

袋の中身は様々なパーティーグッズ。

桜 そ、今日のコンテスト用。

大前田 いやあ、悪いな、俺なんかのためにさあ。

桜 なに言ってるのよ。あんたが優勝するかどうかかわかんないでしょうが。

大前田 楽勝よ楽勝。

桜 うそおっしゃい。

警はじつと黙っている。
工員姿のアブ、走って登場。

アブ オマエダサン、待ってクダサイ！

大前田 よう、アブ。遅かったな。

桜 アブさん、ごくるうさま。

アブ、走ってきたため大息をついている。
ストップモーション。

葵 同じくタチバナ金属工業社員、通称アブさん。イラン出身。…らしい。この人のことはよく知りません。

アブ オマエダサン、仕事あがる、いつも、ビール飲む、テレンコテレンコしている。今日は、イヤラシク早かったネ。

大前田 いやに、だる。

アブ オマエダサン、どういう腰の振り回しデスカ？

大前田 風の吹き回しだ。相変わらずオマエの日本語はキテレツだな。

アブ すみませんネ。

大前田 どいつもこいつも！ いいか、今日という日は、この俺の夢が叶う記念すべき日なの！

桜 今日のコンテストで優勝するつもりなんだって。

アブ ああ、夢コン、今日デスカ。

桜 ホラ、これ見て。

桜、アブにもパーティグッズを見せる。

アブ あー、これ、なにデスカ？

桜 コンテストのあと、パーティで盛り上がろうってこと。

アブ (なぜか眉をひそめて) 楽しそうデス。

大前田 楽しそうならそれらしい顔をしろ！ 感動のないヤツらだな、アブといい馨とい…馨、どこいった！ 馨！

馨、ひとりでぼつんと背中を向けている。

馨 …(黙って振り向く)

大前田 なにしてんだ、そんなトコで。

アブ ああ、カオサン、コンニチハ。

大前田 カオじゃなくてカオル。いつのまにか隅っこにいるな、オマエは。

アブ ジュンサン、これ、会社のお金で買ったデスカ？ ケイヒで？

桜 まさか、小百合さんがそんなお金出してくれるわけないじゃない。社長の自腹。

アブ ナルホド。

大前田 さすが社長は太っ腹だよなあ。それに比べて息子のオマエは…。

桜 ちょっと、大前田くん、言い過ぎよ。

馨 …。

葵による解説。

葵 そう、賢明なる諸君はすでにお気づきでしょう。彼の名前が橘馨。会社の名前がタチバナ金属工業。彼は、タチバナ金属工業の女社長橘道江さんのひとり息子なのであった。

大前田 じゃあまあ、とにかく行くぞ事務所！

桜 ハイハイ。

大前田と桜、退場。

アブ いきませんか、カオサン。

馨 …。

アブ どうかしましま力。

馨 …ししましたか。

アブ シマシマ…力…

馨 し、ま、し、た、か。

アブ …生きませんか。

馨 …俺、いいよ。

アブ なげゆえ？

馨 …べつに。

アブ カオサン、夢コンテスト、夢出したでシヨ。ワタシも出シタ。機会、平等。みんなにチャンスある。優勝するかもしれナイ。

馨 …。

アブ 誰でもに、可能性あるヨ。そうしたら、優勝したら、夢叶ウ。そのため、社長、カオサンのオカサン、お金、出してくれル。カオサンのオカサン、夢好きな人だから…

馨 …俺、出してない。

アブ …。

馨 出さなきゃ可能性ないだろ。

アブ …どうしてゆえ？

馨 …別に、どうだっていいから。

アブ …。(アブ、そんな馨をじつと見ている) それでも、パーティーある。楽しく楽し
ム。ソレきつとに、楽しい。

馨 …。

アブ 生きましょ、カオサン。いっしょに生き延びまシヨウ。合ってル？

馨 …さあ。

大前田の声 アブ！ なにやってんだ！ 早くこい！

アブ …わたし先いく、カオサン、待ってるヨ。

アブ、退場。

馨、ポケットから、くしゃくしゃにまるめた夢コンの応募用紙らしきものを出す。
それを眺めているが、再び丸めて、投げ捨てる。

馨、退場。

葵ひとりが残る。

葵 …男のくせにカオル。超無口。いつのまにか隅っこにいて、いつの間にかひとり。
り。そんな馨さんの、これはお話です。…わたくしこと、女なのにマモル、も後
ほど登場いたします。…いつけない、こんな時間、帰らなきゃ。…それでは、ま
た後ほど。

葵、退場。

場転。

タチバナ金属工業事務所。
大勢の人があらわれる。

大前田、アブ、桜、設楽梓、阿川小百合、馨。
みんなでパーティー会場を設営している。

桜 こんなもんかしら、梓ちゃん、そろそろ社長呼んでいいわよ。

梓 はい。

阿川 (飾り付けやらパーティーグッズを見て) これ誰が買ったの。

桜 あたしですけど。

阿川 お金は。

桜 あのう、社長のポケットマネーです。

阿川 …。(じろりと見て、よそへ行く)

桜 …こわあ。

アブ アガワサン、お金に厳しいカラネ…。

大前田 おいアブ、そのマイクだいじょうぶか？ テストしとけよ。

アブ、マイクをとる。

アブ アーアー、ただいま、マイクがテスト中。

大前田 マイクの、だ！ おまえマイクか！

梓、登場

梓 社長が来ましたよ！

社長・橘道江、登場
一同拍手。

道江 (マイクをアブから受け取る) みなさんご苦勞様。みなさんも知っての通り、私たちタチバナ金属工業は、創業以来、金属製バッチの専門メーカーとして、誇りと自覚をもってバッチ業界を支えてきました。ピースバッチからちびまるこちゃんバッチ、エヴァンゲリオンバッチから自民党橋龍バッチまで、ありとあらゆるバッチを手がけてきました。そして今年の夏、たまごっちブームにあやかっただ社で作ったオリジナル、たまバッチが爆発的な売れ行きを示し、当社始まって以来の利益を上げることができました。それもひとえに、社員みなさんの努力のタマモノです。

一同、やんやの歓声と拍手。

道江 そこで今回、たまバッチの利益をもとにたまバッチ基金を設立、第一回夢コンテストを開催いたしました。社員みなさんが日頃暖めている夢を募集し、もっとも夢のある夢を選んで、その実現に、たまバッチ基金を役立てようというものがあります。

大前田 社長社長社長！ それ、いくらくらい？

道江 会計の阿川さん。

阿川 銀行口座に一千万円あります。

大前田 一千万円なんん！

一同、大騒ぎ。
ヒュードンドンドンドン、パフパフ。(鳴り物)

道江 それでは発表します。そうね、ええと、桜さんに頼もつかしら。

桜 は、はいッ！（緊張している）

道江、桜に封筒を渡す。
桜、それを開く。

桜 タチバナ金属工業たまバッチ基金、第一回夢コンテスト、優勝は…

緊張の一瞬。

桜 該当者、ナシ！

大前田 いよっしゃああああ！ もうらったああああ！ べっぴんああああああああ！ (ひとりで大騒ぎし、はたと止まる)…え？

全員 ナシ！？

道江 そ、ナシ。

桜 ナシって、ナシってことですか？

道江 ナシっていうのは、ナシってコ・ト。

大前田 なんて！？ どうして！？ ホワイ！？

道江 それはこっちのセリフです。

大前田 ええ？ だって台本に大前田って書いてある…

道江 だまらっしゃい。いいですか。これは夢コンテストですよ。ゆ・め！ ドリーム！

大前田 わかってますよ。

道江 わかってない！ これをこらん！

取り出したのは夢コンの応募用紙の束。

道江 なんなのこれは！ みんな夢がなさ過ぎるわ。所帯じみてるのよ！ 誰！ この

全自動洗濯機！

桜 あ、あたし…

大前田 せこいな、おまえ！

桜 だってえ、欲しかったんだもん…

道江 大画面テレビって、誰！

大前田 あ、俺だ。

桜 同じようなもんじゃない！

道江 MDウオークマンって、なに！？

梓 あたし…

道江 電化製品コンテストじゃないんだから！

アプ あの、ワタシのは…

道江 (用紙を突きつける) 日本人のかわいいオメヨサンを三人！

大前田 てめ、なんちゅうずうずうしい野郎だ！

桜 オメヨじゃなくてオヨメでしょ！

梓 三人て犯罪よ！

アプ あの、でもワタシのクニでは…

道江 ここは日本！ と、に、か、く！

道江、せいせいと息を切らせている。

道江 どうにも選びようがないじゃないの。ダメ。ぜんっぜんダメ！ こんなことなら

アミダクジでもなんでもして選んだほうがましです！

大前田 あ、それいいつすね。それじゃそうしましようか。

道江 お黙り！ とにかく今回は該当ナシ！

大前田 そりゃないつすよ、社長！ みんなこんなに楽しみにしてたんですよ。社員の

ささやかな夢を壊すんですか。

道江 こんなのは夢じゃなくて買物リストです！

大前田 そんなこと言ったって…社長、ひよっとして一千万円惜しくなったんじゃないですか？

道江 失礼な！ そんならあんたたちで勝手に選びなさい。お金は出してあげるわよ！

大前田 あ、言いましたね。ホントですね。よし、全員集合！

アプ、桜、梓、寄ってこめ。

大前田 なんか袋ないか、袋。

アプ ああ、ちよっと待って。

桜 なにするの？

アブ、紙袋を持ってくる。
大前田、その袋に、社長が丸めた応募用紙を入れる。

大前田 いいか、恨みつこなしたぞ。

梓 オーケー。

大前田 いくぞ。…せいやッ!

大前田、袋からひとつ、丸まった紙を取り出す。

大前田、それを桜に渡す。

桜、紙を広げる。

梓 MDウオークマン…

アブ オメヨサン…

大前田 48インチいいいい…

桜 いい、読むわよ。…浅田累に会いたい! ……なにこれ。

大前田 浅田累ってなんだよ?

桜 知らないわよ、書いてあるのよ。

馨 それ、おれんだ。

全員が、馨のほうを見る。

馨 …。おれがさっき捨てたやつだ。

道江 馨。

大前田 馨!

アブ カオサン。

桜・梓 馨くん。

全員 いたの!?

馨 …。

大前田 (ピリピリピリと笛を吹いて教育的指導のポーズ) なし! もう一回! やり

直し!

道江 ちよっと! 恨みつこなしじゃなかったの!

大前田 でも社長…

道江 決まったんなら、それでいいわ。馨、あんたもいいわね。

馨 おれ…べつに…

道江 じゃあ、決まり。第一回夢コンテスト、採用は橘馨!

それまで黙っていた阿川が、パフパフを鳴らす。

道江 以上、解散。

道江、退場。

阿川 あとかたづけ、よろしく。

阿川、退場。

全員 …。

梓 それでその…

桜 浅田累って…

全員 誰?

場転。

【シーン2】

旅行姿の大前田、アブ、梓。馨はいつもと変わらない格好。それを見送る道江、桜。

道江 じゃ、これ。カード。

馨 ……(黙って受け取る)

大前田 (馨からカードを取り上げて)これが、これが一千万円…

道江 (大前田からカードを取り上げて)…あなたはダメ。危ないんだから。(再び馨に渡す)必要なだけ下ろして使いなさい。無駄遣いはダメよ。

馨 ……

梓 社長、ほんとに私も行っていいんですか？

道江 まあ、いいわ。あんたたちも今年は頑張ったんだから、ボーナスがわりに、遠出してらっしゃい。

梓 ごめんね、桜ちゃん…。

桜 いいのいいの。あたしは留守番で。ふたりともいなくなったら困るしね。

梓 阿川さんのご機嫌、とっついてね。

桜 任せて。

道江 アブさん、大前田が羽目をはずさないように、見張ってね。

アブ ハイ。

道江 それじゃ、気をつけて行ってらっしゃい。

大前田 それでは、われわれ、夢コンテスト実行部隊、ただいまより浅田累探索行に、出発いたします！ 敬礼！

大前田、アブ、梓、敬礼する。

桜 探索行って言ったって、住所わかってるんでしょ？

大前田 気分、気分。行こうか。

四人、退場。

道江 行ってきますぐらい言いなさいよ！…まったくあの子は…。

道江、桜退場。
四人、再登場。

大前田 線路は続く〜よ〜、どここまっでも〜とくらあ、ちきしょうめ。

梓 線路なんてどこにあんの？

大前田 気分！ 雰囲気！ いちいちうるさい！

アブ それで、カオサン、そのヒルネムイというのは女の子なわけネ？

馨 浅田累。

アブ そう、アサダルイ、それ。

馨 そうだよ。

アブ カオサン、ずっと文通してた力？

馨 ……

大前田 まったく、しょうもねえ、一千万円あるっていうのに、文通相手の女の子に会いたいって、それだけかよ。もつと男なら雄大な…こう、48インチくらいの夢をだなあ…

梓 それが雄大？

大前田 おまえ人のことと言えるか。

アブ 今もしてるですか、文通？

馨 いまは、してない。

アブ いつからしてないか？

馨 …中2。

アブ どうして文通やめたか？ なにかジジヨあるか？

馨 …さあ。…突然、手紙こなくなった…。

アブ それ、どうして？

馨 …さあ。

大前田 ええい、やめい！ うつとおしいな、お前らの会話は！ もつとまとめて、テキパキしゃべれんか！ どうせオマエのこつた、うじうじうじうじして、そのアサダルイちゃんに嫌われたんだろ。

梓 ちよつと大前田くん、それはひどいわよ。

大前田 ほんとのことだもんなあ、馨ちゃん。

馨 …。

大前田 なんだよ、なんか言い返してみな。

梓 馨くん、気にしないで。

馨 …。

大前田 はん。こいつはこいつやつなんだよ。いつまでたってもお母ちゃんのスカートに隠れて…お、なんだよ、その目は、痛いトコつかれたか。

馨 …。

梓 大前田くん、変だよ、どうしたのよ。

大前田 社長だつてまだ若いんだ。再婚するかもしれないだろ。そしたらオマエどうすんだよ、え、とられちゃうよな。そうだ、おれ、年増好みだし、社長にプロポーズしちゃうかなあ…おっ、このっ…

馨、大前田に飛びかかる。

梓 やめて、馨くん！ ちよつと、アブさん、とめてよ！

アブ うーん、いいタツクルね。

梓 なにのんきなこと言ってるの！

アブ 心配ナイ。オマエダサン、けっこうイヤッ。あれ、わざとネ。

梓 わざと？

大前田 (馨を突き放して) そうだ、馨、てめえもやりゃあできるじゃねえか。男はそれくらいの気迫が…あっ…ちよつと…

馨、再び大前田に猛進する。

大前田 そうだそうだ、そういう気迫が…いてっ…おい、ちよつと待て…あ、いて、このヤロ…あ、いてててて…あっ…そこはよせっ…おっっ…

梓 あれもわざとやられてんの？

アブ いや、あれはマジね。

梓 とめなさい!

アブ ちょっと、カオサン、ブレイク、ブレイク!

アブ、馨を大前田から引き離す。

大前田 むちゃくちゃだな、この野郎…冗談だよ、バカツタレ! おれ、若いのが好きなんだから…おお痛てえ…

馨、へたりこんで息を切らしている。

アブ カオサンかなかなヤル。ナイスファイトね。

大前田 なかなか、だ。カナカナじゃセミだろが!

梓 まったく、出発早々、先が思いやられるわ、こりゃ。

馨、うずくまったままぼそぼそしゃべりはじめる。

馨 ……なんの前触れもなかった…。突然、手紙がこなくなって、それっきりだった。三人…。

馨 心配なんだ。

大前田 わかったよ、つきあってやるよ。ホレ、立ちな。

大前田、馨を立たせる。

大前田 いいか、とにかく俺たちの雄大な夢を押しつけて、不本意ながらオマエのさきやかな夢が選ばれたんだ。決まったからには、あとは実行あるのみだ。ウジウジ考えてても始まらねえ。俺がついている。電光石火で決めるぞ。いいな!

馨 ……(馨にしては珍しく力強く頷く)

大前田 よっしゃ。じゃ、いくか。ホラ駅だ。梓、四人分切符買ってこい。

梓 なによ、威張っちゃって。バカみたい。

大前田 なにイ。

梓 特急券と乗車券四枚づつね。

大前田 アホオ、鈍行でいいんだよ。無駄遣いするなって社長に言われたろっが。

梓 ……ハイハイ。行こ、馨くん。

梓、馨、退場。

大前田 まったく俺がいないとなんにもできねえんだからな…。

アブ ……。

大前田 なんだよ。

アブ オマエダサン、なに考えてるか、ダイタイわかる。

大前田 なにが。

アブ なるべく安くあげて、お金残して、モイチド、夢コン、モイチド、ヤル、それ、狙ってますネ。

大前田 アブ! ……おまえてやつは。ときどき鋭いな。

アブ、大前田、退場
列車の音
場転

四人、登場。
のびをして、からだをほぐす四人。

梓 ここね。

大前田 おお、空気がうまいな。

梓 鈍行で三時間はまいったわね、体中痛いわ。

アブ そうですか？ 日本の列車、とても快適ネ。

大前田 それで、住所は？ 梓、地図出せ！

響、古い封筒を取り出し、大前田に渡す。
地図と封筒で、住所の見当をつける四人。

大前田 わりと駅から近そうだな…。

梓 歩けるわね。

アブ 北のほう…こっちですネ。

大前田 よし、いくぞ。

四人、退場。
飯室と倉本、登場。

飯室 だからさ、もうやめたいのよ、あたし。

三村 はあ。

飯室 だいたいさ、うさん臭すぎるわよ、この仕事。

三村 そうすかね。

飯室 そうよ。わかんない？ 自然と宇宙のミラクルパワーよ。あんた、どう考えたっ

てインチキ臭いじゃないの。

三村 でも、宇宙のパワーってあると思うんですよね。

飯室 あんた、イカした高校生みたいなこと言ってんじゃないわよ。

三村 ボク、高校生です。

飯室 そうよね…いいのよ、宇宙のパワーでも自然のシャワーでもなんでも、お金さえ
もらえれば。

三村 じゃ、いいじゃないすか。

飯室 そこよ。…やばいわよ。たぶん。

三村 なにがですか。

飯室 お金。もらえないかもしれないわ。

三村 もらえないんですか、バイト代。

飯室 あんた、最近パークでも、社長の姿見ないでしょ。

三村 社長って、倉本さんのことですか。

飯室 バカね、倉本はただの雇われマネージャーでしょうが。ここの社長は浅田ってい
うの。

三村 知らなかった。

飯室 今までにもね、いろんなアヤシイ事業に手を出してて、借金も一本や二本じゃき
かないらしいわよ。

三村 一本や二本て？

飯室 一本は一億でしょうが。借金がかさんで、アフガニスタンに逃亡したってもっぱらの噂なのよ。

三村 なんでアフガニスタン？

飯室 そこがまたインチキ臭いじゃないの。

三村 そういふもんですか。

飯室 残った倉本マネージャーがまた輪をかけてインチキ臭いでしょ。あの顔は下手したらバイト代持ち逃げしてトンズラしかねない顔よ。

三村 はあ。飯室さん、よくそんなことわかりますね。

飯室 フリーター歴五年のあたしの勘よ。

三村 じゃあ、どうするんです？ バイトやめるんですか？

飯室 もう、ほんとあんたバカね。いまだきの高校生にしてはニブ過ぎるんじゃないの？ あたしがあんたくらいの頃は、バイトで月十万は稼いでたわよ。

三村 それって援助交際ですか？

飯室 違うわよ！ 暑苦しいじゃないあんなの。

三村 暑苦しいんですか。

飯室 そうじゃないの、そんなことはどうでもいいの。今やめたらそれこそ、契約違反で今まで働いたぶんチャラにされちゃうわよ。

三村 はあー。それじゃ、どうするんですか。

飯室 だからそれで悩んでんじゃないよ。

三村 たいへんですね。

飯室 あんただっておんなじでしょうが。

三村 ぼくは、まあ、どっちかっていうとお金より、テーマに共感してるだけですから。

飯室 テーマってなんのことよ。

三村 だって「宇宙と命の楽園」は、テーマパークですよ。テーマに共感しているから働いているわけです、ぼくは。

飯室 ……あんた、熱ない？

三村 どうしてですか？

大前田、アブ、梓、馨、地図を片手に住所を調べながら登場。

飯室 まあ、いいわ。じゃあ、あんたはやめないのね。

三村 とりあえず、やめる気はありませんけど。

飯室 しょうがないな…あたしももう少しつきあつか…でもなあ…どう考えてもやばいんだよねえ…

三村 だいじょうぶですよ、累さんがいるじゃないですか。

大前田たち、累という名前に反応し、ものかげに隠れて立ち聞き体勢に。

飯室 累ちゃんだって、あんなのパークに閉じこめられてるようなもんじゃない。可哀相に、お父さんにも見捨てられて。体のいい身代わりよ。倉本も、いざとなったら累ちゃんに全部押しつけてトンズラするつもりなのよ。

三村 そうですかね。でも…

倉本マネージャー、登場。

倉本 飯室さん、三村くん、そろそろ行くよ。
 飯室 あ、倉本さん、おはようございます。(手のひらを返したような態度)
 三村 ……
 倉本 車乗ってて。すぐ行くから。
 飯室 はあい。わかりましたあ。

倉本退場。

三村 ……
 飯室 ……に見てんのよ。行くわよ。
 三村 はあ。

飯室、三村退場。

大前田たち、ものかげから出てくる。

大前田 聞いたか？
 梓 聞いた。
 アブ 確かに、ルイ、言いましたネ。
 梓 閉じこめられてるって言ってなかった？
 大前田 よく聞き取れなかったけど、そんなこと言ってたな。
 アブ パーク言いませんでしたか？
 梓 パークってなに？
 大前田 パークはパークだろう、だから、ジュラシックパークって言うたろ。
 梓 言うけどそれが、なに？
 大前田 だから、そう言うってことだよ。
 梓 ルイって子は、そのパークに閉じこめられてるってこと？
 馨 ……
 大前田 なんかどうもキナ臭いな…。
 アブ ここ、番地あつてるマスカ？
 梓 ここよ、確かに。

のぞき込む四人。
 そこへ倉本、再登場。

倉本 ん？ 君たちなに？
 大前田 あ、いや、その…
 倉本 なにか用？
 大前田 いや、用っていうか…なあ…
 梓 ねえ。
 アブ ワタシたち、アサダサン、訪ねてきました。
 倉本 ……アサダ。
 大前田 そうそう。そうなんです。アサダさん。
 倉本 パークの？
 大前田 あ、パーク。
 梓 そう、パークよね、パークです。
 大前田 パークです！
 倉本 ああ、君たち、バイトか。

大前田 バイト？

倉本 そんならちようどよかった。これから車でいくところなんだ。

梓 パークへ？

倉本 そうだ。同じバイトの子がふたりいるよ。一緒に乗っていくといい。

梓 あの、でも、バイトってなんのこと…あいた。

大前田が梓をこづく。

大前田 そりゃあちようどよかった。よろしくお願いします。大前田と言います。ホレ！

梓 あ、梓です。設楽梓。

馨 …橘馨です。

アブ よろしくねがいマス。ワタシ、アブディル・サブリ・バシール・イブン・アブ
ドウラ・アル…(大前田にこづかれる)アウチ。

大前田 アブです、こいつはアブ。

倉本 テーマパーク「宇宙と命の楽園」のマネージャー、倉本だ。よろしく。

梓 宇宙と命の…楽園…？

倉本 じゃあ、車をまわしてくるから、君たちここで待っていてくれ。

倉本、退場。

梓 ちよつと、どついうことよ！

大前田 いいから！ 全員集合！

梓 目の前にいるでしょが！

大前田 いいか。俺の勤じゃあ、アサダルイはトラブルに巻き込まれてる。

アブ カンジャ？ オマエダサンの患者、病氣、ナニですか？

大前田 患者じゃない、勤！ 時間を食うだけの下らないボケはよせ。いいか、さつき
のふたりの会話からして、あの倉本ってのは信用ならねえ。ストレートに責め
て、かわされたらアウトだ。だからここはバイトの振りをして、とにかくその
パークってところまでたどり着かなきゃならねえ。わかるか。

梓 だって、そのバイトってなんなのよ。

大前田 そんなこと知らん。

梓 あぶないコトだったらどつすんのよ！

大前田 しょうがねえだろ！ 俺たちの使命はアサダルイを探し出して、この…

大前田、よそ見してる馨の頭をつかんで、ぐいと振り向ける。

馨 …。

大前田 お坊ちゃんとか対面させることだ。それにはそのパークってところの場所を知
らなきゃ始まらねえ。

梓 それはそうだけど…。

大前田 馨！ オマエの意見は？

馨 …(無言で親指を立て、ぐいと突き出す)

大前田 上等だ。…てめえらいいか、うまく話を合わせて、バイトとして、パークに潜
り込むんだ。

アブ アイアイサー。

梓 …(ため息)…たいへん、これ、桜さんに連絡しといた方がいいわね…。

車のクラクション。
倉本の声がする。

倉本の声 おおい、こつちだ！ 道路を渡ってくれ！

大前田 よし、行くぜ！ 作戦開始！ はあい、いま行きまあす。

大前田、アブ、警、退場

梓 PHSを取り出し、電話をかけながら後を追う。

梓 あ、もしもし…桜さん…？…もしもし？

梓、退場

場転

夕チバナ金属工業、事務所

電話の音

桜、登場

桜 (電話取って)ハイお待たせしました夕チバナ金属工業でございます。…あれ？…もしもし…もしもおし…変ねえ…(電話切る)

再び電話鳴る。

桜 (素早く取る)ハイお待たせしました夕チバナ金属工業…あ、なんだ、梓ちゃんか…ピッチからかけてるの…？…なんか電波悪いみたい…どう、楽しんでる？…え…なに？…ちよつと…落ちて着いて…(息を吸い込む)落ちて着けッていつのッ！

原葵、登場

桜の叱咤にびくっとする。

桜 そう…それで車のなかなのね…うん…それで、どこに向かっているって？…は？パーク？…パークってジュラシックパークのパーク？…なんのことよ…あら…もしもし…もしもおし…！ダメか。潤ちゃん。

葵 マモ！ どうしたの突然。

桜 ちよつとそのへんまで来たから…。

葵 久しぶりじゃない、高校はどう？

桜 うん、まあまあ。

葵 ヒロコとかモエとか、どうしてる？

桜 クラス別れちゃったから、よく知らないけど、元気みたいだよ。

葵 そっかあ…あたしも高校行けばよかったかなあ…でも、マモみたく頭良くなかったからね。

葵 そんなことないよ、あたしも補欠だもん。

桜 あたしになんか用？

葵 うん、まあ、ね。

桜 どうしたの？

葵 今の電話、警ちゃんたちから？

桜 そうだ。そうなの、なんかたいへんなことになってるらしいのよ。たいへんなことって？

桜 こないだ電話で話したこと、覚えてる？
葵 夢コンテストの話、でしょ？

桜 そう。それでね、馨ちゃんの夢が当選しちゃって、それで今朝、大前田くんたち
葵 出かけていったんだけど…
桜 だけど？

桜 なんかね、怪しげな男にバイトと間違えられて、車で連れてかれる途中だって…そ
葵 れが、なんか、どこだかわかんないんだけど、パークっていうところなんだって…。

葵 …あちゃー…やっぱり…

桜 ん？ なに？ やっぱりってどういうこと？

葵 あのね、潤、あたし、そこ知ってるんだ。

桜 はあ？

葵 そのパークって、テーマパークでね…山奥にあって…「宇宙と命の楽園」てい
桜 うの。

葵 ……思いつきりインチキ臭そう…

葵 そうなの。

桜 なんでそんなことマモルが知ってるの？

葵 それは、話せば長いんだけど…話せば長いの。

桜 あたしのことなめてる？

葵 なめてない。…とにかく、知ってると思って。思ってるっていうか、知ってるの。

桜 知ってるというコトをまず前提として話を進めさせて。

葵 どうぞ。

桜 行きましょ。

葵 はあ？

葵 馨くんが、文通相手に会ってっていう話を聞いたときから、こうなるんじゃない
桜 かって思ってたの。

葵 ぜんぜんわかんないわ。

桜 とにかくこうなったからには、あたしたちも、パークに行かなきゃだめ。

葵 あんた話を進めてるってより、話を飛ばしてない？

桜 お願、潤。

葵 なんていきなりそうなるのよ。

桜 お願、潤、助けると思って。

葵 ……

桜 お願。

葵 わけはあとで聞かせてくれるんでしょうね。

桜 ぜったい。約束する。

葵 ……わかったわよ。外で待ってて。着替えてくる。

桜、退場。

葵 (つぶやく) 累ちゃん…。待っててね。

葵、退場。

場転。

テーマパーク「宇宙と命の楽園」、野外ステージ。
マネージャー倉本登場。

倉本 レディースアンドジェントルマン。ようこそ「宇宙と命の楽園」へ。これより始まりますのは、当パークのメインアトラクション、自然と人間の深く豊かなかわりをテーマにお送りする感動のミュージカル。題して「エコロファンタジー・愛」！ では、ごっせー！

倉本退場。

かぶりものをかぶった飯室、三村、大前田、アブ、馨、梓による、インチキミュジカルが繰り広げられる。

登場人物は

悪漢ハウスダスター（大前田）、空き缶くん（三村）、吸い殻くん（アブ）、

杉花粉ちゃん（梓）、エコロ姫（飯室）、茶柱キッド（馨）。

物語は、悪漢ハウスダスターにさらわれたエコロ姫を、正義のヒーロー茶柱キッドが、ハウスダスターの手下である空き缶くん、吸い殻くん、杉花粉ちゃんなど闘い、これを味方につけながら、救出出すというもの。

第一部は、ハウスダスターの登場と、茶柱キッド対空き缶くんの闘いである。

「エコロショー第一部」

ハウスダスター軍団登場
ダンス。

ハウスダスター 姫…。エコロ姫…。

姫 （気づく）あなたは誰？

ハウス やがてこの世を支配する男。

姫 （はつと身を起こす）…ハウスダスター！

ハウス さよう。キャッチフレーズは、

杉花粉・吸い殻・ハウス 見えない隙間もへっちゃらさ！

ハウス 今宵、姫をいただきに参上した。

手下、姫を囲む。

姫、すり抜けて逃げる。

ハウス …その気の強いところがこのハウスダスターの征服欲をそそる。杉花粉ちゃん！

杉 はっ。

ハウス やっっておしまい。

杉、アタマをゆさゆさと揺する。

花粉が風下のハウスダスターと吸い殻くんに、

くしゃみをするふたり。

ハウス 馬鹿馬鹿！ こっちに飛ばしてどうする！

杉 風向きが

ハウス ええい、扇げ！

吸い殻くん、扇ぐ。花粉は姫のもとへ。

姫、吸い寄せられるようにハウスダスターのもとへ。

ハウス はっはっはっ。ついに我が手に来たか。エコロ姫を手に入れたからには、俺の

世界征服は目と鼻の先。

吸い殻 しかし殿下、あの男が。しかし殿下、あの男が。

ハウス 二回言うな。そう、やつが来る。あのヒーロー気取りの憎い奴は、必ず姫を救いにやってくるに違いないぞんす。

吸い殻 まずいんじゃないすか。まずいんじゃないすか。

ハウス だから二回言うな。…それがこちらの思う壺。すでに刺客をはなっているので「じゃあ」。

杉 そつえば空き缶くんが…

吸い殻 いない。では？

ハウス (うなづいて) 今度こそやつをしとめてみせる…。行くぞ！

退場。

空き缶くん、登場。茶柱登場。

空き缶 待っていたぞ、茶柱キッド。ハウスタスター軍団声優科研究生、空き缶くんだ。

おまえを殺す。

茶柱 …。

バトル風ダンス。

戦いに負けた空き缶くん。

空き缶 つぶせ！ つぶしてくれ！ 俺は負けたんだ。負けた空き缶はつぶされるんだ。

つぶされて溶かされるんだ！ 怖いよう！ 溶かされたくないよう！

茶柱、黙って手を差し出す。

空き缶 …許してくれるっていつのか。おまえを殺そうとした俺を。

茶柱 …。

茶柱、無言のまま、空き缶の手を取って起こす。

どうやらセリフを忘れてるらしい。

空き缶 茶柱…。友達だつて言うのか？ こんな、ポイ捨てされた俺を？ (泣く)

茶柱 …。(完全にセリフが飛んで真っ白になっている)

空き缶 わかった。わかったよ！ そこまで言うなら、おれのこの命、おまえに預ける。

(がっしり握手) ハウスタスターの城まで案内するぜ。こっちだ！

茶柱 …。(呆然としている)

空き缶 (小声で教える)…待っててくれ、エコロ姫。

茶柱 待っててくれエコロ姫！

退場。

(ハウスタスターの唄)

ハウスタスター。

ウオウ、ウオウ、ウオウ、

おれはどこにでもいるぜ。

丸い部屋、四角い部屋、

畳部屋、フローリング、

どんな部屋にも忍び込む。

見えない隙間もへっちゃらさ。

おれはハウス、ハウス、ハウスタスター、

ウオウ、ウオウ、ウオウ、
溜まって溜まって部屋の隅。

(空き缶くんの唄)

空き缶、空き缶、つぶされて、
空き缶、空き缶、べしゃんこだ、
空き缶、空き缶、捨てられて、
空き缶、空き缶、青い空
空き缶、空き缶、蹴飛ばされ、
空き缶、空き缶、白い雲
だけど、ルルルル、よみがえる
いつかきつとよみがえる

第一部が終わる。

ステージ。

大前田、アブ、響、梓、かぶりものそのまま、残っている。
あまりのことに、ぐったりしている四人。

大前田 予想外の展開だな…。

梓 なんなの、これ…。

大前田 さっぱりわからん。

梓 なんて正義の味方が茶柱なのよ！

大前田 おれに怒ってもしかたないだろ。

アブ (なぜか眉をひそめて) なかなか、楽しいデスネ、コレ。

大前田 楽しいなら、それらしい顔をしる！

梓 こんなことしていいの？ アサダルイを探すんじゃないの？

大前田 いきなりうるちよろできないだろうが。まずは相手に合わせないと。

アブ まずは、情報収集、必要ですネ。

バイトの三村、登場。

三村 あ、どうもお疲れさまでした。

大前田 ああ、空き缶くん。

三村 三村です。いやあ、みなさん、初日としては上手ですなえ。ボク、感動しました。

大前田 あんたもなかなか凄かったね。

梓、大前田をこぼく。

梓 ホラ、チャンスよ、チャンス。

大前田 わかったよ。…あのさ、空き缶くん、ちょっと聞きたいことがあるんだけどね。

三村 三村です。なんですか？ 振り付けのことですか？ そつえば、あそこがちよつと違ってましたね。ええと、(唄いながら踊る) 見えない隙間もへっちゃやん…

大前田 イヤイヤ、それはいいの。そつじゃなくてね。君、アサダルイって、知ってる？

三村 ああ、累さんですか。知ってますけど。

アブ ルイサン、どこいますか？

三村 ここにいますよ。さっきもステージ見てましたよ。

梓 えっ。

大前田 閉じこめられてるんじゃないの？
三村 はあ？

梓 じゃあ、じゃあ、どこに行けば会えるの？ 会えるんでしょ？

三村 いまは事務所にいるんじゃないですかね。

梓 事務所って、テーマパークの事務所。

三村 そうですよ。なんと言っても累さん、今はこのパークの責任者ですからね。

大前田・梓 責任者あ？

アブ クラモトサン、責任者ないですか？

三村 倉本さんは雇われのマネージャーです。ボクもさっき聞いたんですけど、このパークの社長は浅田って人で、累さんのお父さんなんだそうです。

梓 社長の娘？

大前田 じゃ、社長は？

三村 それがどうも、借金に追われて逃げちゃったらしいんです。

馨、立ち上がる。

馨 じゃあ、累ちゃんは…

三村 たいへんですよ。ひとりで全部背負って頑張ってるんですから。

馨 …学校は…？

三村 結局、高校は中退しちゃったらしいです。お父さんが次々にいろんな事業に手を出して、その手伝いとかがたいへんで…

馨 そうか…。

大前田 ひでえ話だなあ、それ。

三村 なにせ夢見がちな人らしいですよ、お父さんは。

梓 夢ねえ。夢が多過ぎるのも考えもんでことか…。

アブ ウチのシャチヨサンとは、似てるようでエライ違いネ。

馨 …。

考え込んでいる馨を見て、大前田は梓とアブに目配せする。

大前田 …じゃあ空き缶くん、悪いけどその事務所ってのに案内してくれないか。

三村 三村です。累さんに会ったと思ったら、行かなくても、向こうから来ましたよ。

大前田 え、どこどこ。

エコロ姫のかぶりものを持って、少女が走って登場。
浅田累である。

累 たいへんたいへん…んぎゃっ。

累、五人の目の前で見事に転ぶ。

累 いたたたたたた。(高く掲げたかぶりものを見る) よし、無事だった！

三村 累さん、だいじょうぶですか？

累 あ、三村くん。やだ見てた？

三村 どうしたんですか、あわてて。

累 これ、エコロ姫の帽子の羽根のところがほつれちゃってるの。

三村 飯室さんに言われたんですか。

累 ううん、麻未さん気づいてなかったみたい。わたしさっき客席から見てて気づいたの。

三村 よくわかりますね、そんな遠くから。

累 だってあたしが作ったのよ、これ。

梓 え、そうなの。

累 新しくいらっしやった方ですね、わたし、浅田累です。よろしくお願いします。

梓 あ、こちらこそ。

累 さっきの舞台、とつてもよかったわ。

大前田 そりゃどうも…これ、君が作ったって？

累 ええ、あなたのハウスタスターも。それから、そっちの茶柱キッドも、みんな。

梓 すごい…。

累 裁縫だけは得意だったんです、わたし。これくらいのことしかできないけど…それじゃ、これからもよろしくお願いします。

梓 大前田くん。

大前田 うん。…あの、累さん！

累 (振り返って) はい？

大前田 実はですね、ええと、おれたちがここに来たのにはわけがありまして…お

馨 …。(馨の方を見る)

大前田 なに黙ってたんだよ。

馨 …。

大前田 (馨が黙っているののでしびれを切らせて) 実はですね、こいつは橘…いてっ！

馨、大前田の脇腹に肘撃ち。

大前田 なんだよ！

馨 …累さん、ぼくたち一生懸命舞台やりますから、どうか安心して客席から見ていてください。

累 あら、ありがとうございます。頑張ってください。

馨 はい。頑張ります。

累 それじゃ。

馨 それじゃ。

累、退場。

大前田 どういうつもりだよ！ 記録的に長くしゃべりやがって！

アブ でも、カンジンなこと、言っただけ。カオサン、これでいいですか？

馨 …いいんだ。

梓 いいって、なにがいいの？

馨 練習しよう。

梓 練習って、踊りの？

馨 うん。

大前田 なに言ってたんだ、アサダルイに会いに来たんだろうがオマエは！

馨 うん。会えた。だからいいんだ。

大前田 いいんだって、オマエ、名乗ってないだろ！ 向こうだって気づいてないだろ！ それでいいのかよ！

馨 ……

梓 ……練習しよ、大前田くん。

アブ そですネ、やりましょウカ。

大前田 ……ったく、わけわかんねえな、オマエは！…わかったよ！…空き缶くん！つきあってくれ！ 振り付けの確認だ！

三村 みなさんノってきましたね。三村です。じゃあ、やりましょウか。宇宙のパワーを感じながら踊ってみましよう！ ミュージック！

大前田 勝手にしろ！

音楽がかかり、みんな踊りに入る。
そのまま、エコロシヨ、第二部に突入。

第二部は、茶柱キッド対吸い殻くんの闘い、とらわれのエコロ姫の嘆き、茶柱キッド・吸い殻くん・空き缶くんの友情の唄、などである。

「エコロシヨ第二部」
進む空き缶くんと茶柱キッド。
立ちふさがる吸い殻くん。

吸い殻 寝返ったな空き缶。寝返ったな空き缶。

空き缶 二度言っな。そっだ！

吸い殻 昨日の友は今日の敵。こっから先は通さないズラ！

空き缶 おまえどこの生まれだ。

吸い殻 問答無用。問答無用。

空き缶 だから二度言っな！

吸い殻 いくぞー！

バトル（立ち回り）
敗れ去る吸い殻くん。
茶柱、空き缶、吸い殻くんを見下ろす。
吸い殻、虫の息で最後の言葉を吐く。

吸い殻 ……そのころ…

空き缶・茶柱 そのころ？

吸い殻 そのころ…城では…（ガクリ）

ハウスダスター、エコロ姫登場。

ハウスダスター （倒れた吸い殻くんを見下ろしながら）…情けないやつめ…。

エコロ姫 ポイ捨てはダメよ。

ハウスダスター、エコロ姫、すたすた退場。

茶柱・空き缶 ……。

【シーン3】

第二部が終わる。

ステージ。

大前田、アブ、馨、梓、残っている。

第一部同様、ぐったりしている。

梓 やっぱりよくわかんない…。

大前田 なにがいたいのか、つかめん。

アブ それにお客さん、異常に少ないデスネ。

拍手が起こる。

四人が見ると、葵、そして桜が登場。

桜 よ、名演技。

梓 あ。桜さん！

大前田 潤子、おまえなにしてきたんだ、こんなとこまで。

桜 大前田くん、似合うじゃないの、それ。

アブ ジュンサン、なぜここガ？

桜 葵ちゃんに教えてもらったのよ。高校のときの同級生で、原葵。

大前田 なんだ、どっかで見た顔だと思ったら、女マモルか…。

葵 ひさしぶり、大前田くん。

大前田 なんでオマエが知ってたんだよ。

葵 馨くん。

馨 …。

葵 累に会えたの？

馨 …。

葵 あたし、累のこと知ってるのよ。驚いたでしょ。

馨 どうして…。

葵 …このテーマパークの社長の浅田次郎って人ね、あたしの叔父さんなの。

馨 …。

葵 だから、浅田累とあたしは従姉妹同士ってわけ。

馨 …。

葵 知らなかったでしょ。

馨 …なにしにきたんだよ。

葵 みんなを連れ戻しに来たのよ。

馨 …。

葵 浅田の叔父さんはもう日本にいないわ。親戚はみんな知ってる。叔父さんは累

ちゃんを見捨てて逃げちゃったの。ここもすぐ閉鎖になる。どっじようもないの

よ。ここにいたらみんな巻き込まれるわ。だから…

馨 やめろ！

葵 …。

馨 帰れよ…。

葵 …。

馨 帰ってくれよ。

葵 　　いつしよに帰ろつ。

馨 　　おれは残る。残ってシヨをやる。

葵 　　そんなことしても、なんにもならないわ。

馨 　　おまえになにがわかるんだよ。

葵 　　わかるわよ。累に同情してるんでしょ。累の役に立ちたいと思ってるんでしょ。でも累だって知ってるはずよ。もつすぐ終わりがくるって。それがわかってるの？

馨 　　終わらせないよ。

葵 　　バカ！ そんな中途半端な同情がなんになるの。あんたになにができるの？ 役になんか立ってない。みんなを巻き込んで、長引かせてるだけよ！

馨 　　うるさい！

葵 　　馨くん！

　　桜、そっと葵の肩に触れる。

桜 　　マモ。

葵 　　。。。ごめん。言い過ぎたわ。

桜 　　馨くん、累ちゃんとは会えたの？

馨 　　。。。

梓 　　会ったわ、さっき。

桜 　　（ちらりと葵を見る）それで、どうだったの？

大前田 　それがさ、こいつ自分のこと言わねえんだよ。

桜 　　そう。。。とにかく、浅田累に会っつっていう夢は実現したわけね。

アブ 　　そう言えるでしょウネ。

桜 　　それなら、みんな、帰ってきてちょうだい。

馨 　　おれは。。。

桜 　　馨くん、自分のことだけじゃなくて、みんなのこと考えて。工場だって困るのよ。

大前田 　大前田くんや、アブさんや、梓ちゃんが帰ってこなかったら。。。わかるでしょ。

馨 　　。。。

桜 　　大前田くん、仕度して。

大前田 　。。。馨、ここまでだな。。。アブ、梓、行くぞ。

梓 　　うん、でも。。。

大前田 　いいから、来い。。。あと頼んだぜ、女マモル。

　　大前田、梓、退場。

アブ 　　カオサン。。。だいじょうぶか？

馨 　　。。。

アブ 　　先に、帰ってるヨ。

　　アブ、去りかける。

馨 　　アブさん。

アブ 　　なにカ？

馨 　　アブさんだろ、俺が捨てた応募用紙、こっそり拾ってきたの。

アブ 　　。。。ばれてタ？ でも、袋に入れただけ。なにも細工してない。だから選ばれたのはカオサンの運ネ。

馨 アフ 余計なことしたかネ？
 ……いや…ありがとう。

アフ、にっこり笑って、退場。

馨 ……おれは帰らないよ。最後の一回だ。約束通りショーをやってから、帰るよ。
 ……どうする、マモ。

葵 最後の一回ね。それで終りね。

馨 ああ。

葵 わかったわ。潤ちゃんとふたりで、終わるまで待ってるから。

馨 なに言ってるんだ。

葵 なによ。

馨 三人帰っちゃまったろ。足りないんだよ。

葵 ……あ、あたしにアレやれって言つての!?

馨 それでもあとふたり足りない。

馨、桜を見る。

桜 あ、あたし？

馨 ……

桜 そんな目でみないですよ。もう…わかったわよ、やればいいんですよ！

馨 あとひとり…

馨、登場する。

葵 あたしがやるわ。

馨 ……

葵 葵ちゃん、ひさしぶりね。元気そう。

馨 葵ちゃん、あんたも…

馨 一度やって見たかったんだ。杉花粉ちゃん。これいちばん凝って作ったのよ。

馨 ……

馨 揃ったわね。じゃあ、唄と振り付けを教えるから、みんな来て。

葵、桜、退場。

馨 ……

馨 どうしたの？

馨 おれ…

馨 ……？

馨 おれ、橘馨っていうんだ。小学校三年から中二まで、君が文通してたのはおれなんだ。男のくせに馨で、ずいぶんいじめられた。でも、でも君と文通してたおかげで、ずいぶん慰められてた。…君から手紙が来なくなったとき、嫌われたのかと思ってずいぶん悩んだ。君にこんな事情があったなんて知らなかったから…だから…おれ…今度は君のために…

馨 ……待って。

累 ごめんなさい、それ違うわ。
 馨 ……なにが。
 累 あたし、文通ってしたことないの。
 馨 ……
 累 ひと違いだと思う。たぶん…

倉本登場
 手にはポストンバッグを持っている。

倉本 ああ、ここでしたか。累さん。

累 倉本さん、聞いて下さい。ショーの出演者、なんとかなりそうなんです。わたしも出ます。まだできます、ショー…。

倉本 (手でさえぎって) 長い間お世話になりましたが、お別れの時が来たようです。倉本さん？

倉本 情報が入りましてね。これから当局の捜査が入るそうです。主に税務署とそれから警察ですな。お父さんの作った借金の債権者がだいぶ騒いでいるそうです。

累 今日…

倉本 まあ、累さんもいずれこうなることはわかっていたんでしょ？

累 ……ええ、わかっていました…でも…そう、今日なの…

倉本 わたし、あまりごたごたは好みませんので…お先に失礼させていただきます。…そうそう、金庫に残ったお金ですが、退職金ということ、いただいておきます。だいぶ足りませんが、まあ、長々とお世話になったし、サービスとします。

累 待って、それじゃ、バイトの人たちにお給料が出せないわ！

倉本 そうですな、労働には報酬を。で、もっとも労働力を提供したのがこの私というわけですね…ま、悪く思わないで下さい。

累 倉本さん！

倉本 なに、だいじょうぶ。累さんはなにも悪いことはしていないんですから。警察の取り調べに正直に答えていればいいんです。ま、老婆心ながら、最後のアドバイスです。では。

倉本、さっさと退場。

累 ……。(唇をかみしめて立っている)

馨 ……

累 みつともないでしょ…。

馨 ……

累 こうなるのはわかった。こういつぶりにしかならないのはわかった。でも、それが今日じゃなければよかった…。今日でなければいい、今日でなければいい、毎日、そう思ってた…。

馨 ……(言つぐき言葉がなにも見つからない)

葵、登場。

葵 累ちゃん…。

累 ……うん。

バイト飯室、三村、登場

飯室 累ちゃん！ 倉本マネージャーは？

累 (涙をぬぐって) ……行っちゃったわ…。

飯室 あいたあ！ やっぱりあいつ、食わせもんだったわ…。 お金も持ってかれたでしょ？

累 ええ。

飯室 もう！ バイト代丸損！ あたしともあろうものが、不覚だったわ。

累 ごめん…ごめんなさい…。

飯室 しょうがないわね…。 累ちゃんのせいじゃないわ。 潔くあきらめるわよ。 あたしも行くわ。 じゃあね。

累 あの…

飯室 ん？

累 最後に、最後にもう一度だけ、シヨをやってもらえませんか。

飯室 シヨをやって？ それ、ただでやってこと？

累 ……すみません。

飯室 累ちゃん、それはないわよ。 ただ働きの上乗せ？ 「冗談でしょ？

累 ……。

飯室 ……三村くん、どうする？

三村 それが、ボクはやりたいんですけど、警察がくるって、倉本さんが…それで、ボク、親に内緒でこのバイトしてるんで…すぐ帰らないと…。

累 …… すいません。 すいません！

飯室 ……うん、いいの。 じゃあ、悪いけど、もう行くわね。 元気で。

飯室、三村、去りかける。

馨 ぼくが払う！

累 ……ええっ？

葵 馨くん！ なに言い出すの！

馨 飯室さん、三村くん、バイト代はボクが払う。 今までの分、全部！

飯室 なに言ってるのよ。いくらになると思ってるの？ あんたそんなお金持ってるの？ 待っててくれ、すぐ、すぐ戻ってくるから。

駆け出す。

退場。

葵 馨くん！ 馨！

葵、追って退場。

累、飯室、三村、退場。

場転。

山道。

走ってくる馨。

足がもつれて倒れる。

そこへ葵が追ってくる。

しばらく息が切れて言葉がでないふたり。

葵 ……ばか。
葵 ……うるせえ。
葵 単細胞。
葵 ほっといてくれ。

葵 ……
葵 ……あんたのお母さん、好きよ、あたし。
葵 ……

葵 ……大きな夢が好きで、夢、夢って口癖みたく言ってる、勇ましくて…
葵 ……それがなんだよ。

葵 ……あのお金、そんな使い方がいいの？

葵 ……お金はさ、使う人の考え方や、気持ちで、きれいにもきたなくもなるのよね、きつと、きつとお母さん、そういうこと言いたかったんじゃないかな、夢コンテストで。

葵 ……
葵 ……戻ろう。馨。

葵 ……戻って、ショーやる。累のいちばん好きだったショー。人が足りなくてもいいじゃない。

葵 ……
葵 ……ね、そうしよう。

葵 ……
葵 ……ん？

葵 ……
葵 ……サンキュ。
葵 ……行く！

大前田の声がする。

大前田の声 ショーのことならお任せを。
葵 あれっ。

大前田、梓、アブ、登場

馨 どうしたんだよ。

葵 帰ったんじゃないかったの、みんな。

梓 それがね、事務所の前で、あのインチキマネージャーにばったり。

大前田 様子がおかしいんで覗いてみたら、事務所の金目のものあら探してやがったんで、車奪って戻ってきた。

葵 奪って？

アブ オマエダサン、エンジンを、直結で持って来まして。

馨 さすがもと暴走族。

大前田 それを言うな。いいから乗れよ。送ってあげ。ラストショーに間に合うようにな。

梓 行くっ！

全員、退場。

エコロシヨ、最終章。
 バイト二人が帰ったため、配役は以下のようになっている。
 悪漢ハウスタスター（大前田）、空き缶くん（桜）、吸い殻くん（アブ）、
 杉花粉ちゃん（梓）、エコロ姫（葵）、茶柱キッド（馨）。

ハウスタスターと対決する茶柱キッド。
 無事、エコロ姫を救い出し、仲間とともに高らかにエコロジーの凱歌をあげる。

唄（エンディングテーマ）

世界に季節があつて
 しろいゆびさが唄う
 やさしさが坂道をのぼっていく
 おお、分別するところ
 分別、分別、リサイクル
 あなたは振り向く
 振り向けばそこに
 いつもミネラル、ミネラルの丘
 だから生きよう、手をとりあつて
 分別、分別、不燃物。
 「あなた、茶柱が立ってますよ」
 「こりゃあ、縁起がいいな、母さん」
 …

【シーン4】

誰もいなくなったステージ。
葵と馨が登場。

葵 馨

…。
みんな車で待つてるよ。

ん。
けっこう面白かったじゃない。最後のショー。

葵 馨

そうか。
累も喜んでたよ。

葵 馨

累ちゃんは？
警察の人が連れていったわ。

葵 馨

…。
だいじょうぶよ、あの子、強いから。

葵 馨

うん。
…ねえ、馨。

葵 馨

ん？
あたし、あんたにあやまらなきゃ。

葵 馨

なにが？
あたしが嘘ついてなきゃ、こんなことにはならなかったのよね。

葵 馨

嘘？ なにが？
…もとはと言えばあたしのせいなのよね。

葵 馨

だからなにが。
馨、あなたの文通相手、あたしなの。

葵 馨

…？
累の名前借りて、あの子のところからあたしのウチに手紙回送してもらって、六

年間、浅田累の名前であんと文通してたのは、あたし、原葵。
嘘だろ。

葵 馨

ホント。

葵 馨

…なんて？
あんた、いじめられてたじゃないの、小学校のときから。

葵 馨

うん。
あんた、そのころ文通の雑誌に、手紙出したでしょ、文通相手求むって。

葵 馨

出した。それで累ちゃんから手紙が来て…
それがあたしなの。

葵 馨

…なんておまえが…
あたしも、名前でいじめられてたし、あんたと話したかったの。でも、あのころ

葵 馨

あたし、男まさりで通って…照れくさかったし…だから…

葵 馨

…。
それでね、ずっと累の名前借りてたの。…怒った？
…まいった。

葵 ごめん。
 葵 なんて文通、やめたんだ？
 葵 別に、理由はないの…中学で部活とか忙しくなったし…いやになったわけじゃないのよ。…ホントよ。
 馨 …。まいったな…。
 葵 ずっと忘れてた、そんなこと。あんたがずっと覚えてたんだってわかって、びっくりしたわ。それで、ここまで来たの。ほんとは、それを言いに来たの。
 馨 …（深いため息）
 葵 でも、きてよかった。
 馨 なんて？
 葵 かつこよかったよ、けっこう。男力奥尔くん。
 馨 …。
 葵 行こ！

馨、退場。

葵 あとを置いて行きかけて、ふと止まる。

葵 …こうしてテーマパークは閉鎖され、資産は没収、競売にかけられました。累ちゃんも警察と税務署で取り調べを受けた後、親戚の家に落ち着いて、お父さんの帰りを待つことになりました。高校にも再入学できたそうです。…これで、馨くんのお話は、おわりです。…えっと、正確には、あとちょっとで、終わりです。

葵、退場。

場転。

数ヶ月後。
 タチバナ金属工業事務所。
 働く人々。

大前田 アブ！ 準備いいか！ 行くぞ！
 アブ ハイハイ。準備オツケーネ。
 桜 待ってまって大前田くん、工場いくならこの書類持ってって！
 大前田 なんだよ、早くしろよ！
 桜 待ってって言うてるでしょ！
 梓 社長！ お電話！
 道江 誰！
 梓 都庁の上田さん！ 愛鳥週間キャンペーンのバッチ五千個まだかって！
 道江 あたしはいない！
 梓 （電話に）すみません社長いません！
 阿川 桜さん、この伝票なに？
 桜 あ、それ花火大会のビール代！
 阿川 認めません！

そんななか馨、登場。

大前田 馨！ おまえ、学校なんか行ってる場合か！ この状況が目に入らぬか！

馨 今日、卒業式の予行演習だもん。
大前田 サボれ！　そしてバッチを作れ！
馨 ヤダよ。

葵、登場。

葵 おはようございます！　馨！　見て見て！　累から葉書！
馨 へえ。

葵 （葉書読む）元気でやっています。あの最後のショーのことは忘れません。父も日本に戻ってきました。檻の中で、次の夢を見ているでしょう。みなさんによるしく。追伸　こんどはわたしと文通しませんか。だって！

馨 おれ宛じゃねえか、貸せ！

葵 だって彼女、馨の住所知らないもん。

馨 いいから貸せ！

葵、走って退場。

馨、追う。

道江 馨！　弁当！

馨、戻って弁当を受け取り、入り口で振り返る。

馨 ……いつてきますッ！

その音量に、働く人々　一瞬動作が止まる。

全員 ……ッてびっしやいッ！

走り去る馨。

我にかえった人々が、再び忙しげに働くなか、

幕。